

今年度、法人の支援委員会の中に初めて『虐待防止委員会』が発足しました。職員による利用者の皆さんへの虐待や不適切行為を防止することを目的に活動しています。新しいスタートの1年、今年度は以下の3つの柱を活動内容として掲げ、7名の委員で活動しています。

## ①啓発活動

・法人職員に対して…各事業所に虐待防止担当者を配置しました。今年度は、虐待防止担当者、チーム支援が難しい環境下にならざるを得ないホーム職員、そして虐待防止委員を対象に、外部講師を招聘して全3回の研修を実施しました。来年度以降、各事業所単位で、虐待防止担当者を中心に全職員を対象に研修を実施していく予定です。

・利用者の皆さん、ご家族に対して…皆さんから声をあげていただけるよう、利用者の皆さんに対して事業所ごとに説明するとともに、リーフレットを配布しました。ご家族の皆さんに対しては、法人の取り組み等についてお手紙を配布しました。

・すずらの会の取り組みの参考にすべく、他法人に伺って取り組みを聞かせていただいたりもしています。

## ②利用者聴き取り調査

昨年度までサービス向上委員会でも実施していた聴き取り調査を、虐待防止委員会でも実施していくこととなりました。今年度は、ワークショップ・フレンド、ワークセンター・やまと、ホームすずらのうち、なるみハイツ、さんたらっぷ、パークハウス、ワイビレッジ、の100名あまりを対象に実施しました。聴き取りは既に終了し、現在結果をまとめています。

## ③日常的な支援についてのチェック

今年度は、事業所間相互に観察チェックを実施しました。虐待防止担当者、虐待防止委員が、自分の所属事業所以外の事業所を訪れて、わかりやすい丁寧な支援が行われているか、不適切な支援が行われていないか、具体的な支援目標がたてられているか、等をチェックしあいました。こちらも現在結果をまとめています。来年度は、自分自身の支援を振り返るセルフチェックも実施していきたいと考えています。

虐待や不適切行為は決してあってはならないことです。しかし、「すずらの会には虐待はありません」という態度ではなく、「不適切な行為は身近に起こりうることだ」と職員一人一人が認識することが、より良い支援への第一歩であると、ここまでの委員会活動を通じて感じるようになりました。まだ歩み始めたばかりの委員会です。皆様からのご意見をいただきながら、虐待防止に向けて活動を続けて参ります。



## 研修のご案内

障害者雇用に取り組んでいる企業担当者を招いた講演会を開催します。

テーマ：「積極的な障害者雇用と職場定着のための工夫、事業所が求める支援者・家族の役割とは」 参加費無料

講演者：白井 由貴子 氏（医療法人相愛会 相愛病院 総看護師長 他）

日時：平成30年1月19日（金）18:30～20:00（予定）

場所：ユニコムプラザさがみはらセミナールーム（ポーノ相模大野サウスモール3F）

連絡先：ワークセンターやまと（担当：和賀） TEL：046-278-1731 FAX：046-278-1732

あいあいS（担当：平原） TEL：042-777-6776 FAX：042-777-2881

※参加ご希望の方は、上記連絡先まで電話またはFAXにてお申込みください。

ご厚意に感謝申し上げます

（寄付）小林 雅昭 様



福祉事業に対する温かいご理解を賜り、ご厚意に深く感謝申し上げます。こちらに掲載させていただいた方の他にも、年間を通して多くの方からご支援を頂戴しております。（地域活動への招待、授産作業のご紹介、設備品・玩具・本の寄贈など）誠にありがとうございます。

## 編集後記

法人設立から今年で28年目となります。多くの方々からすずらの会のサービスを利用させていただいた中で、必要な改善や経験を重ねて参りました。今後も、幅広い年齢層のどの年齢に於いても、快適にサービスを受けられるように、内容を充実させていきたいと思っております。（広報委員会）

# 広報 すずらん

発行日：平成30年1月1日（平成8年創刊）

発行元：社会福祉法人すずらの会 理事長 松屋 直人 URL: <http://www.suzuran.or.jp>

所在地：〒252-0328 神奈川県相模原市南区麻溝台7-6-4 TEL: 042-745-8080

編集：広報委員会

2018(平成30年)

1月発行  
第66号

## 年頭のご挨拶

理事長 松屋 直人

戌

明けましておめでとうございます。本年も、当法人の運営等につきまして、引き続きご支援とご鞭撻の程、宜しく願い申し上げます。

さて、昨年4月に改正社会福祉法が本格施行となり、法人の運営体制が一新されました。評議員会・理事会の運営や情報公開等について、国・相模原市・協会からの情報等に基づき、適切な対応をしたつもりですが、充分だったのかについては一抹の不安が残るところです。

支援委員会による利用者の方からの聴き取り調査、職員へのアンケート調査、及び日々事業所等に寄せられる要望等、様々な機会を通じて情報を収集し、サービスの質を検証し、必要な改善を検討実施することでサービスの質の向上を図っておりますが、今後も多くの方々からのご指摘を頂戴しなが

ら、より良いサービスの実現を目指して鋭意努力して参りたいと存じます。

また、今年4月から、総合支援法制度の一部改正と全面的な報酬改定が行われますが、新たに創設されます障害福祉サービスと介護保険サービスとの共生型サービスや就労定着支援への取組、基本報酬が時間単価化される可能性の高い障害児通所支援の運営検討等適切に対応していかなければなりません。

目まぐるしい変化の時代ですが、利用者の方々の明るく充実した将来に向けて、様々な課題を克服しながら、職員一丸となって取り組んでいく所存です。

最後になりましたが、皆様方の今年一年のご活躍とご多幸をお祈り申し上げます。

## 地域とつながる交流イベント

イベント委員会委員長 池田 宏子



ねこパンチ クリスマスライブ出演



サファリパーク Duo クリスマスライブ出演

平成29年度すずらの会の地域交流イベントは12月2日(土)のクリスマスライブを最後に予定していた企画を終了いたしました。

7月のサロンコンサート、10月の作品展、そしてクリスマスライブとともに、公益財団法人相模原市まち・みどり公社の共催をいただき相模原市民健康文化センターで開催することができました。加えて10月28日(土)には、グリーンハウスでフェスタすずらん2017を開催し、地域の皆さま、法人利用者、ご家族など600名を超える方々にご来場いただきました。途中雨が降りましたが、演者の素晴らしいパフォーマンスに終演まで楽しんでいただき、職員との相互交流の場となりました。毎年、フェスタ開催にあたりましては、近隣にお住まいの方々のあたたかいご理解と、KYB株式会社様に駐車場をお借りし、ご協力いただいたことに、この場を借りましてお礼申し上げます。

先日開催したクリスマスライブには、余暇企画として法人内4事業所が観覧に訪れ、例年よりも多くの法人利用者が会場に足を運びました。曲中、演者の方が準備してきた手製のマラカスを来場者に配布し、一緒に演奏と歌に参加するというお客様を巻き込んだ演出があり、会場はいつにない盛り上がりで楽しいひと時となりました。

小さなお子さま連れのご家族など、多くの方にご来場いただきましたが、今後も色々な方にご来場いただけるように広報活動などを工夫していきたいと思っております。

## 口腔予防からカラダの健康を保つ ―グループホームの訪問歯科診療―

取材協力：ホワイトデンタルクリニック相模原院  
 歯科医師：古屋 良一氏  
 歯科衛生士：城山 明代氏、和田 和美氏  
 コーディネーター：成澤 昭子氏、福寿 規恵氏

グループホームみらいでは、入居者の方々の定期的な訪問歯科診療を実施しています。

衣・食・住に関わる様々な事について見守る中で、歯の健康は日常生活の質を向上させる大切な部分です。普段から歯磨きをしていても、上手く磨けていなくて疾患につながる人や、疾患に気づかずに状態を悪化させてしまう人もいて、定期的な歯科診療（通院）を促しますが「歯医者さんに行く緊張してしまって」と不安になり通院できない人もいます。また、特に気になる症状がない場合には、定期検診を受けるきっかけもなく、過ごしている方もおられます。

歯科診療をグループホームの定期日程に含めることで、入居者全員が効果的に診察を受けられるようになりました。

取材したこの日は、歯科医師、歯科衛生士、コーディネーターの全5名で来所されました。

ホワイトデンタルクリニックの訪問歯科診療は、歯磨きなどにより口腔内細菌を減らし感染予防につながる器質的口腔ケアに加えて、「口から食べる」その機能に着目した機能的口腔ケアに重点をおいて診療されているそうです。頬の筋肉の状態を診てマッサージを施したり、噛む力を確認したりします。飲み込む機能や咳をする力が弱くなると、口腔細菌や逆流した胃液が誤って気管に入りやすくなり、誤嚥性肺炎を発症する危険もあるそうです。また、口唇が閉じられず、あいたままだと口呼吸になり体調や嚥下に弊害が起きることがあるので、口を閉じる力をつけるために、ストローや吹き戻し等を使い楽しみながらできるリハビリの方法など、在宅でできるケアの方法も教えてくださいました。



これからの口腔リハビリは、次に表すような気になる症状を改善することにも繋がるとのことです。

- 口の中がいつも乾いている
- 舌の上が白くなっている
- 言葉がはっきりしなくなってきた
- 食事の際に咳き込んだりむせたりする
- 食べ物をこぼす事が多くなっている
- 食が細くなった
- 風邪をひきやすい よく熱を出す など、



診療は、世話人が夕食の準備をしている普段の様子の中で行います。テーブルに診療セットを準備している間は、自分の部屋を歩き来したり、慣れたソファでテレビを見たり、歯科医院の待合室で感じる緊張感とは違い、リラックスした雰囲気の中で準備が進められていました。



「今日はピーチ味を持ってきました」と衛生士の方が話すと、「今日はこれにします」と、好みの歯磨き粉を選んで興味津々に順番を待つ様子からは、身構えているような緊張感がうかがえませんでした。「歯がきれいですね」と褒められる人、最近の様子について医師の問診を受けている人、ケアを終えて「やっぱり気持ちが良い」と感想をもらす人、終始穏やかな雰囲気の中で進められていました。診療時に「気になるところがあります」と申し出た利用者には、医師がその場で小型のレントゲン検査機器を使い、患部を撮影して歯茎内部の状態を確認していました。医師からの説明を聞いて安心した表情を見せると、その姿を見た世話人も安心した表情を浮かべていました。

### ■コーディネーターから

「こちらのホームは年齢も若い方が多いので、治療に至る方は少ないですが、次回の診療までの間隔があくと、やはり心配な要素が見えてきます。みなさんの状態を診ながら、都度回数を増やしたり減らしたり、相談して決めています。初めのうちは消極的だった人も、診療する毎に、徐々に興味を示してくれて、口腔内をケアすることに喜びを感じている様子が伺えます。」

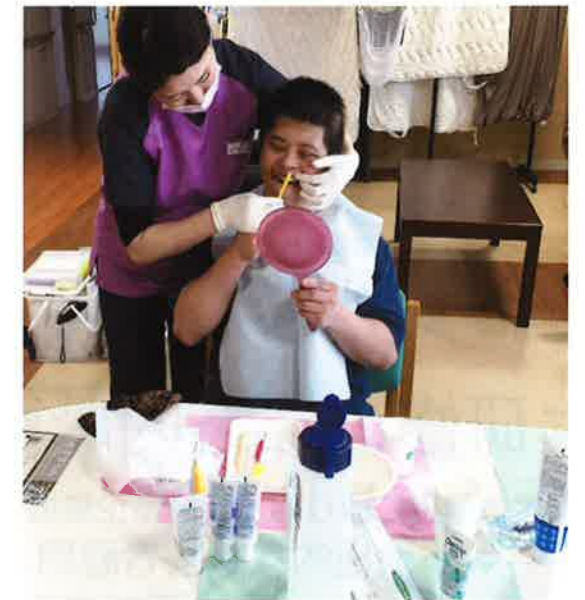
＜いろいろな風味の歯磨き粉＞ <リハビリに使う吹き戻し＞



### 【安定した暮らしのために】

現在すずらんの会は10か所（定員計62名）のグループホームを運営しています。1992年（平成4年）に当時の生活ホームを開業して以来、衣・食・住の支援を中心としてお住まいになる方の心身ともに安定した暮らしを実現すべく、行き届いたサービスを提供できるよう心掛けて参りました。毎年、健康診断や内科検診などを実施して、個々の健康管理を促していますが、歯科疾患は見た目では分かりにくく、ご家庭でも見落としがちな部分ではないかと思えます。日常生活を見守っていても歯科疾患やその予備軍を見つけることは難しいものです。患うと生活に与える影響は大きいので、長く健康に保ちたい部分でもあります。

セルフケアだけでは口腔内を良い状態に保つことは難しく、安心して老後の生活に繋げるには、定期的にかつ専門的に診てもらったことが効果的です。口腔内の状態が悪いことから発症するさまざまな因子を取り除くためにも、定期的に訪問歯科診療による専門的な口腔ケアを受けて、今後も日常生活の質の向上を図って参ります。



ホームによっては、時間や曜日の調整などの諸条件が整わないために、現在は1か所のホームが歯科診療に取り組んでいますが、今後は、他のグループホーム等でも取り入れられると良いと考えています。

※記事・写真の掲載にあたりご本人の了承を得ています。  
 （取材：広報委員会）

